

「アースキーパークリスタル Pchhan」と 144000の光の魂を持つ仲間たち

第2回

アースキーパークリスタル協会 会長 小川雅弘



おがわ まさひろ

1960年、高知県高知市に生まれる。立教大学を卒業後、石油会社を経て、運輸事業や株式会社クリークファーム地域研究所代表を務める。その他、NPO法人の活動や、地域の発展に尽力する一方で、アースキーパークリスタル協会会長を務める。理想郷を築くという夢を実現するため、講演会活動なども活発におこなっている。

事務局 〒780-0053 高知県高知市駅前町4-10 株式会社クリーク内
FAX: 088-826-6016
e-mail: info@earthkeepercrystal.com

にんげんクラブのみなさん、こんにちは、アースキーパークリスタル協会会長の小川雅弘です。これから数回にわたって「アースキーパークリスタル Pchhanと144000の光の魂を持つ仲間たち」についてお話をさせて頂きたいと思っていますので、宜しくお願いします。

第一回に書かせていただきましたが、ちょっとおさらいの感じでアースキーパークリスタルの説明をさせて頂いていただきます。

「アースキーパーとは、驚異的な大きさを持つクオーツクリスタル」であり、「一九八六年にこの惑星上での存在が知られるようになった」と、「クリスタル・ヒーリング」という本にあります。

これを書いたカトリーナ・ラファエル女史は、巨大な水晶をアースキーパーと呼び、これを現代に紹介したアメリカの有名なクリスタル・ヒーラーです。その高さは平均して一・五から二メートル。重量は三トンから四トンもあり、地下およそ十から二十メートルで採掘されます。

世界に12個のアースキーパークリスタルが存在し

ていると言われています。現在よく知られているのが、ハワイのカウアイ島のヒンズー寺院にある約400キログラムのアースキーパークリスタルだけが知られています。我が家のPchhanは二つ目の存在となります。その他にも幾つかのアースキーパークリスタルの存在が囁かれています。具体的にどこにあるのかわかっていません。

カトリーナ・ラファエル女史は、その著書でも書いているように、一つ目が現れると、二つ目が現れ、二つ目が現れると三つ目が現れるようになっていくようです。確かに、先日三つ目の情報が寄せられました。まだ詳しいことは、わかりませんが、わかり次第お伝えしたいと思っています。

アースキーパークリスタルは、「地球の守り手」と言われるように、地球の創世記から記憶を持っていると言われています。現存する物質の中で一番長く存在するのが石達です。

唐人駄場

Pchhanを高知に呼ぶきっかけとなった「唐人

駄場」についてお話ししてみたいと思います。船井勝仁社長とも十数年前から足摺岬にある巨石群「唐人駄場」へも一緒に探索などもしていただきました。

私が環境問題に取り組むようになったのは、フナイオープンワールドで高木善之さんの講演を聞いてからでした。高知で地域・地球村を立ち上げて初めての講演会を主催した13年前に、地球村のチラシを見られてチャネラーのNさんが訪ねてこられました。高木さんにメッセージがあるとのこと。高木さんにご紹介させていただきました。そのNさんが暫らくたって、高知県の足摺岬に世界最大級の巨石群があり、世界の未来を左右するような重要な場所。存在たちが私に頼みなさいとのこと。唐人駄場の研究組織を立ち上げるべく、地元国会議員さんを会長にお願いして、唐人駄場探索協会を立ち上げました。そして地元の研究者の皆さんに執筆していただき、「黒潮と縄文巨石文明」と言う本を出版させていただきました。その本の中からご紹介してみたいと思います。

県都・高知市から車で約3時間半の足摺半島の突先の一带に唐人駄場遺跡は存在します。

唐人駄場の名前の由来ですが、トウとは神のことでトウジンとは神人の意味ではないかと言われている。駄場とは、四国の西南部の方言で平らと言う意味らしい。唐人駄場とは、神と人の平らな場所の意味のようである。

唐人駄場のある足摺半島の先端部は特異な地質で、その分布地はまれにしかないと言われている花崗岩でできており、花崗岩のできた年代は、1300万年前と言われている。

日本で唯一黒潮が直接あたる(白濤)足摺半島は、古代から海流に乗って葦船などで航海し環太平洋で、北米や南米、ポリネシアやオセアニアと文化が繋がっていたと言われています。ここは、縄文時代の前期、紀元前5000年頃に、南方から海流に乗って古代人がやってきたと言われています。

巨石群の現在の中心地は、唐人岩と唐人駄場公園である。唐人岩は、古代の灯台(シーミラー)であったと言われ、唐人駄場公園は、かつて直径300mもの世界最大級のストーンサークルであったといわれる。しかし公園造成の為に石はなぎ倒され埋められてしまったようだ。大変残念なことである。

この唐人岩は、巨大な四層からなる石組があり、過去の遺跡の調査で、それぞれの石に記憶されている「古地磁気」の偏角(真北からのずれ)が異なることから、人の手が加わったことが証明されている。その他のストーンサークルでもこれと同じ現象が

確認されており、人の手が加わっていたことがわかっている。

唐人岩の亀石は、春分の日・秋分の日など特別な時にグローブのような親指のところに日が当たると言われており、何かの祭祀に使われていたらしい。陰陽石は、見ての通りエネルギーを表わしているようだ。

アルゴ船は、ギリシア神話に登場する巨大な船の名前である。唐人駄場にはこのような船の形の石が二つありギリシア神話との関係を漂わせている。

佐田山の三石は、四国88カ所の第38番札所、金剛福寺の奥の院がある、白皇山にある。白皇山は古代のピラミッドではないかと言われており、山の中には巨石が縦横に配置されている。時のカレンダーのように古代人たちが、太陽や月や星々からくるエネルギーが自然や人間を生かす基本的な力だと信仰していたようだ。唐人駄場には、同じ図形がいくつも配置されている中で、三つの石の組み合わせが象徴的である。古くから修験の地とされ、信仰の中心の山であったと思われる。

風の門は、白皇山 山頂近くにあり、人間が通り抜けられるようになっていて。方角的には、北方向ではあるが、天体や星の運行を表わしているような気がする。

白皇山の山頂には、コンドル岩と呼ばれる不思議な岩がある。白皇山全体は鳥が羽を広げて休んでい

るような形になっている。向かって右側の羽のこぶが佐田山である。コンドル岩は、一ドル札にあるピラミッドの目のように大きな石から浮き上がっている。何か象徴的な石である。

山頂には、石鎚神社が祭られており、コンドル岩が指示している方向も石鎚山のものである。地図上で見ると、石鎚山と唐人駄場と室戸岬が正三角形を形作り、四国の聖域を形づくっている。

エジプトやマヤのピラミッド、インカ・アステカの遺跡、イースター島のモアイ像やニャージーランドの先住民たちとの繋がりと世界各地に存在していた巨石文明と高知県の足摺岬の唐人駄場は、何かの関係がありそうである。

この唐人駄場の研究を進めるうちに、約10年前にチャネラーのSさんから、ブラジルにアースキーパークリスタルと言う、地球を守っていた巨大な水晶があり、それを日本に呼ばなければならぬとの話があり、皆で資金を募りましたが、結局は手に入ることができませんでした。

しかし前回書かせていただいたように、2007年のアメリカのミネラルショーでPchanに出会うことができました。この唐人駄場の石達がPchanを呼んだようです。

そして、Pchanは世界中もしかしたら宇宙と繋がっていくような気がします。



足摺半島の地図



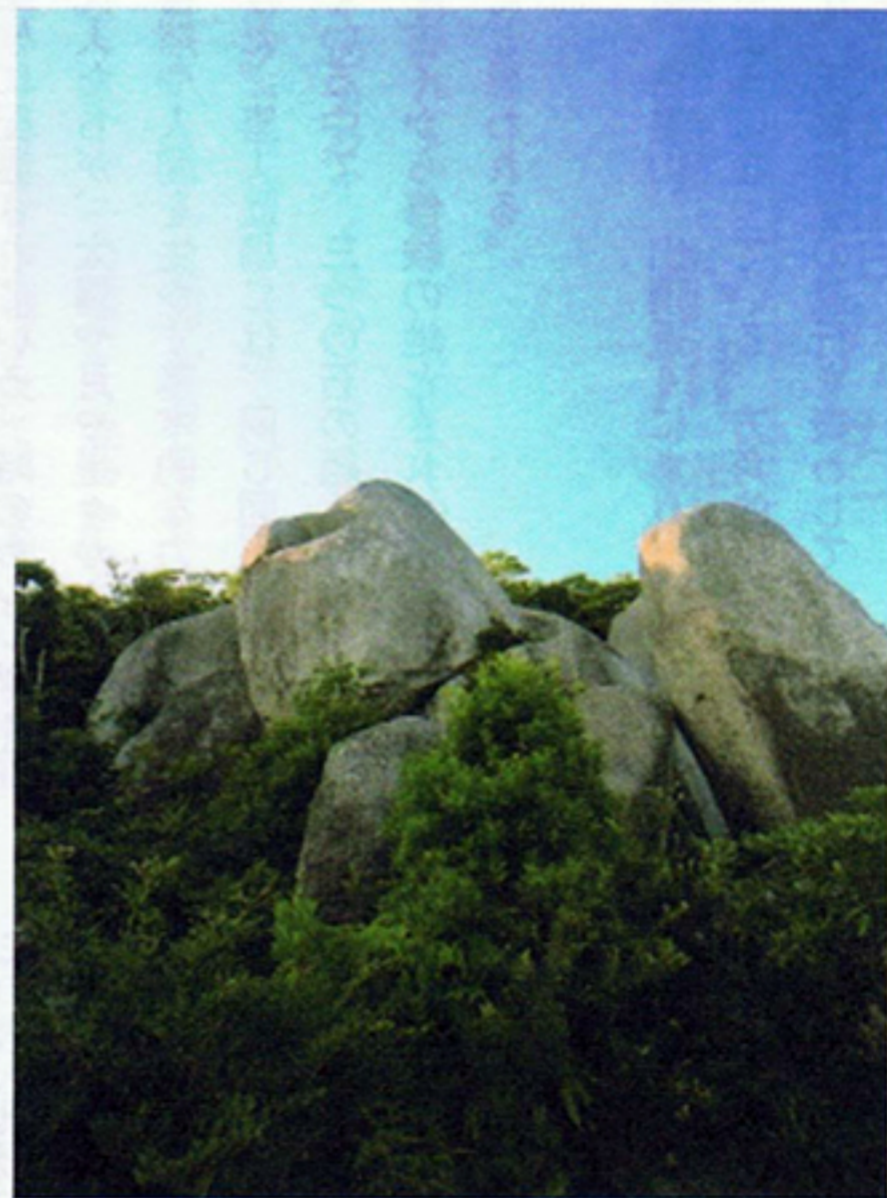
高知県



唐人駐場公園



平滑な面の石



唐人岩



陰陽石



唐人岩の亀石



唐人岩の四段の石組



白皇山全景



コンドル岩



白皇山 風の門



白皇山の岩



影平山の舟形石・アルゴ船



夕陽の白礫(ウスバエ)



曆石 曆石は、カレンダー代わりに使われていたのではないと思われる。



龍の鱗のような白礫の岩肌



佐田山の三ツ石

※アースキーパークリスタル協会(<http://www.earthkeepercrystal.com/>)では、満月の瞑想会、土佐の美・癒・健フェアの開催、Pchanの講演会、セレナイトの剣のワークショップのワークショップなども活動させていただいています。
お問い合わせは (info@earthkeepercrystal.com) (090-3186-9800小川)まで、お願いします。



白皇山全景



コンドル岩



白皇山 風の門



白皇山の岩



影平山の舟形石・アルゴ船



夕陽の白礫(ウスバエ)



曆石 曆石は、カレンダー代わりに使われていたのではないと思われる。



龍の鱗のような白礫の岩肌



佐田山の三ツ石

※アースキーパークリスタル協会(<http://www.earthkeepercrystal.com/>)では、満月の瞑想会、土佐の美・癒・健フェアの開催、Pchanの講演会、セレナイトの剣のワークショップのワークショップなども活動させていただいています。
お問い合わせは (info@earthkeepercrystal.com) (090-3186-9800小川)まで、お願いします。